

陣中要務

全

182  
35

館書圖京東				
壹	三五	架	一八二	函
冊	號		類	門

和書門

051498-000-2

182-35

陣中要務 (官版)

軍務官 / 編

K4

BFB-0245





慶應四年戊辰六月

官版 陣中要務全

軍務官

代書印

陣中要務目錄

第一編 前軍ノ概論

第二編 露營幕營舎營ノ警備法

第三編 野衛

第四編 野衛司令官ノ行作

第五編 哨兵配布ノ法及哨兵ノ職務

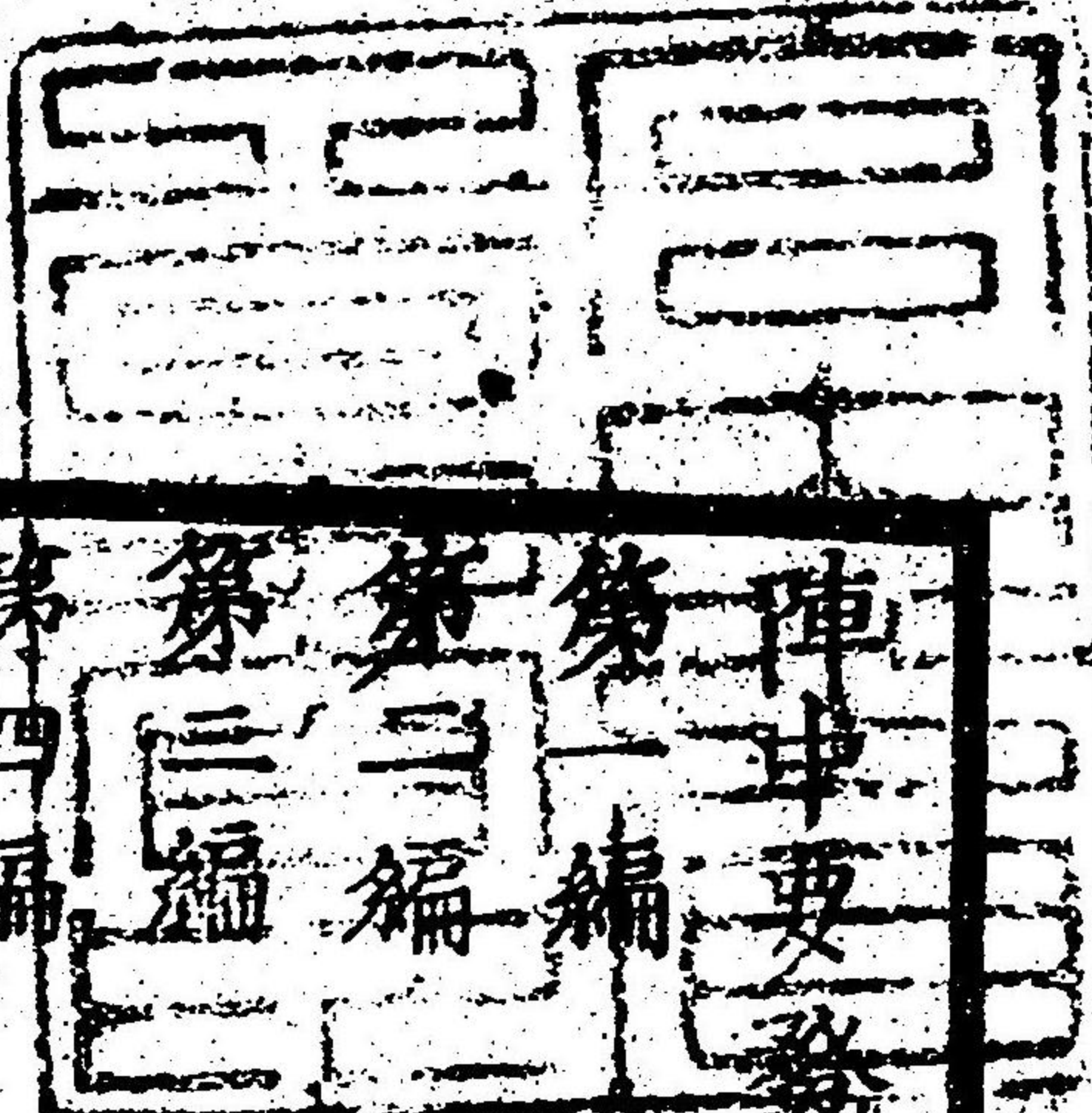
第六編 斥候

第七編 野衛交代ノ法

第八編 行軍ノ時警備法

附錄 運送隊

目錄畢





原本ハ「ハンドレイジンク」トトケニス。フンテ。ブル  
ド。ジョンスト。フール。オンドル。オヒシレン。エ。コル  
ホラールス。デル。インハンテリ。歩兵長陣中要務心得  
書ノ義ト顔セル者ニレテ西洋紀元一千八百五十六年  
和蘭軍務局ノ命ニ依テ刊行スル所ナリ

### 陣中要務

#### 緒言

凡テ此要務中ニ所載ノ法律ハ有事ノ日ニ方テ我全軍  
或ハ全軍ノ一部敵ト對陣シ或接戦ヲ爲ストキノ勢ニ

基キテ所定ナリ

司令官ハ其爵位ノ貴賤ヲ論セス而シテ兵卒ハ其員數ノ  
多寡ニ拘ハラズ又前衛探兵野衛斥候等ノ如ク名稱各  
異ナリト雖智戰場ニ出ルニ方テハ其所業必一定不變  
ノ法則アリト思フ勿レ夫戰鬥紛亂ノ時ニ臨ミテ預メ  
所定ノ規矩ニ合シ難キ事亦多シ此時ニ方テ唯我思慮  
才知ヲ以テ應變ノ處置ヲ爲サスハアルヘカラス是  
レ上下共ニ須ク銘記スヘキ事ナリ  
已ニ思慮才智アリ且雄武ニシテ信義深ク以テ能ク人ヲ  
服スルハ偶然不幸ニ會フモ遂ニ能ク大勲ヲ建ツ可  
シ而シテ無事ノ日ニ於テ預メ有事ノ中ノ形勢ヲ熟考シ



各其戦争ノ法則ヲ了解スルハ其益ヲ得ルヲ少カラス

第一編

前軍ノ概論

第一章 何レノ兵卒モ戦場ニ出ルハ命令ニ應ジ直チニ戦争ヲ爲スノ備アルヲ要ス

第二章 然レモ全軍ノ諸兵或全軍ノ一部ヲシテ常ニ必戦争ノ備ヲ爲サシメント欲スルハ諸兵卒ヲシテ大ニ疲勞セシムルノ患アリ故ニ諸兵卒中ノ一部ヲ定メ以テ全軍ヲ警守セシメ又敵ノ動靜ヲ窺ハレムルノ任ヲ命ジ以テ適宜ノ策ヲ建ルニ便ス

第三章 是ノ如ク全軍ノ守衛警備ヲ行フニ所供ノ兵ヲ名ケテ前軍フイールポス

前軍ノ職務ハ極メテ切要ナル者トス是レ全軍ノ安危ハ其職務ノ巧拙ニ關ルヲ以テナリ故ニ其長タル者ハ皆我任ヲ識ルヲ第一ノ要事トス今ヤ先ツ陣内警備ノ法律臨時ニ須要ナル者ヲ舉ケ兩ノ次ニ前軍職務ノ件々ヲ細説セム

第二編

露營幕營舎營ノ警備法

第四章 我軍敵陣 傍ニ近クトキハ舉テ露營ビホヲ布ク者トス露營トハ隊伍ヲ亂サヌメ外氣中ニ布陣シ



又急ニ遊蔽ヲ設ケ其下ニ障スルヲ謂フ  
第五章 露營ヲ布クニハ乾燥ノ地ヲ撰ヒ其近傍ニ食  
料薪材清水アル處ヲ良トス

密氏曰兵卒敵陣ニ近ツクトキハ露次ス然レモ精軍  
ノ間長キトキハ小殿ヲ建テ或布幕ヲ張リ以テ風雨  
寒暑ヲ防クニ供ス之ヲ名ケテ幕營レ<sub>レ</sub>ゲルカシ  
ト曰フ

新式ノ布幕十六人ヲ容ル、者ハ圓形ニシテ其徑四  
寸七五アリ

和蘭ニテハ多ク圓形ノ布幕ヲ用フ其類五種アリ曰  
將帥幕曰首長幕曰上長幕曰十六名ヲ容ル、者曰ハ

名ヲ容ル、者是ナリ一<sub>ハ</sub>タイロ<sub>シ</sub>毎ニ首長ハ各首  
長幕一個ヲ備ヘカビテイ<sub>シ</sub>及輔佐ノ長官モ亦各上  
長幕一個ヲ携フ而メ其他ノ長官ハ兩人ツ、一上長  
幕内ニ入ル

八人幕ヲ賦與スル數ハオンドルア<sub>シ</sub>ダン<sub>ト</sub>一名  
毎ニ一個タンブールマヨル<sub>モ</sub>一個コルポラールタ  
ンブール<sub>ト</sub>吹角手ト四人ニテ一個各<sub>コ</sub>ムハグニ  
中ノセルチアントマヨール<sub>ト</sub>ウリール<sub>ト</sub>兩名ニ  
テ一個小銃エニ一個各<sub>コ</sub>ムバダニ<sub>中</sub>ノ洗婦ニ一  
個ナリ

十六人幕ハ步卒ノ所用ニメ其高三手五其徑大約四



手ハアリ

第六章 前軍ノ職務宜キヲ得ルトキハ幕營及露營ヲ  
布クノ兵ハ舍營カントシテ人家ニ寄宿スルヲ  
謂フニ比スレハ敵ノ侵襲ニ遇フノ恐少シ是レ幕營露  
營ノトキハ不時ノ號令ニ應シ直チニ兵ヲ聚メ隊ヲ結  
ビ以テ敵ニ當ルニ便ナルヲ以テナリ

第七章 舍營ヲ布キテ兵備ヲ爲サハルトキハ兵卒遠  
ク離散ス急ニ之ヲ聚合スルノ難ク且兵卒安逸ニ墮リ  
易キヲ以テ陣中警備ノ律令最嚴密ナラズレバアル可  
ラス

第八章 一舍營中必一聚屯處アリ兵卒ヲシテ預メ之

ヲ知ラシメ以テ號令ニ應シ各其兵仗及軍服ヲ携ヘ聚  
屯處ニ赴クニ便ス

第九章 每晚全軍ノ一部或全軍ヲ聚會シ小舍或別製  
ノ大屋中ニ納メ軍裝ヲ着ケ兵仗ヲ執リ以テ徹夜セシ  
ム而メ之ヲ要セザルトキト雖亦營中ノ兵卒ヲシテ能  
ク不虞ニ備ヘシメ以テ令ニ從ヒ直チニ進出ツルニ便  
ス故ニ居常ニ其兵仗軍裝ノ所在ヲ定メ直チニ之ヲ認  
メ用フルニ供ス夜間ニハ各營中必兵卒一名ヲ寤シ當  
直セシメ而メ此ニ燭ヲ燃スヲ要ス下長及伍長ハ宜ク  
此陣中警備ノ法律及煩次ノ件々ヲ精密ニ點檢シ以テ  
之ヲ其規矩ト爲スベシ



其他下長及伍長ハ營中營士ノ行作ニ注意シ兵士中若シ事ヲ愁訴スル者アルトキハ則之ヲ其所屬ノ上長ニ告ケ以テ事ノ是非ヲ斷セシム

第十章 下長及伍長出陣ノ初ノヨリ預メ能ク戰場ノ形勢并ニ道路ノ連絡ヲ詳ニシ以テ其斥候ヲ率ヒテ出ツルトキ行クヘキ地方及道路ヲ知ルヲ要ス

第十一章 夜間ニハ舍營ノ番兵中ヨリ斥候ヲ出シ舍營中ヲ過行カシメ以テ營中ノ頻次ヲ監察シ又營外ニ出テ營外ナル野衛ノ遣ニ非常ノ事無キヤヲ點檢セシム

第三編

野衛フルトワフテン

第十二章 兵卒ノ一部ヲ定メ以テ全軍ノ警備ヲ爲サシメ乃此兵ヲ呼ムテ前軍ト稱ス是レ已ニ第一編ニ所論ナリ

前軍中ニ所屬ノ者ハ第一ニ前軍小隊フォールホステン  
テタセメンテントス是レ前軍中ノ最大ナル兵隊ニノ  
布陣ノ地ノ要處ニ在リ第二ニ應援隊オンデルステウ  
ニングホステントス是レ野衛ノ援助ヲ任スル者ナリ  
第三ニ野衛トス按スルニ前後ノ頻ニテハ第一ニ野衛  
第二ニ應援隊第三ニ前軍小隊トス

第十三章 野衛ハ小兵隊ニ本軍ヲ離レ敵軍ノ方ニ



陣スル者ナリ大抵下長或伍長ヲシテ其司令タラシム  
而ノ野衛ノ兵卒ハ二十四時 毎ニ交代スルヲ常トス  
第十四章 野衛ハ前軍中ノ第一列ニ在リテ最近ク敵  
陣ニ接シテ陣スル者ナリ野衛ノ後ニ應援隊アリ應援  
隊後遙ニ遠リテ更ニ前軍小隊アリ

第十五章 野衛ノ地位ハ首長或副長ヲシテ定メシム  
ルヲ常トス其地位ヲ撰ビ野衛ヲ配布スルニハ宜ク殊  
ニ次件ニ注意スヘシ

(第一) 野衛ハ敵陣へ通スル大道ヲ守リ縱令之ヲ守  
ラザルモ能ク之ヲ探索ス

(第二) 野衛ノ間五ニ間隔セズ

第三 地利ニ依テ助ヲ得

第四 野衛ノ布置ハ務メテ潛伏スルヲ要ス然レモ四方  
ノ地ノ搜索ヲ妨クルニ至ル勿レ

第五 野衛ト野衛ヲ所出ノ隊即其本隊トノ間地勢ノ阻  
碍無キヲ要ス阻碍アルトキハ則敵兵襲來ルトキ野衛  
ノ歸路ヲ妨ケ以テ之ヲシテ其本隊ト隔斷セシムルノ  
患アリ

第十六章 野衛ノ員數并ニ其兵卒ノ衆寡ハ諸種ノ景  
況ニ因テ同シカラズ殊ニ本軍ノ衆寡地ノ形勢廣狹又  
敵陣ヲ距ルノ遠近ニ拘ル者トス之ヲ概計スルニ後哨  
兵シユツベルシキルトワフトヲ要スルノ地ニハ各八



名ヲ備ヘ少クモ六名ニ下ル勿レ而ノ唯單哨兵エ一  
シキルドワフトヲ備フル地ニハ各四名若クハ三名ヲ  
配布ス

第十七章 野衛ト野衛ヲ以テ遮蔽スベキ隊即其本隊  
トノ距離モ亦諸般ノ景況ニ關ル者トス就中兵隊ノ舍  
營ヲ取ルト露營ヲ布クトニ依テ異ナルヲ最大ナリ舍  
營ノトキハ露營ノトキヨリモ遠ク相離ル、者トス是  
レ舍營ヲ取ルノ兵ハ露營ヲ布ク者ヨリモ戰装ヲ爲ス  
ニ多ク時刻ノ猶豫アルヲ欲ス故ニ敵ノ舉動ヲ早ク報  
告スルヲ要スルヲ以トリ  
是ヲ以テ野衛ノ距離ヲ定ムルニハ其本隊未ダ敵ノ襲

ヲ受ケザル前已ニ適宜ノ處置ヲ爲スニ適スルヲ要ス  
九テ野衛ハ敵ノ爲ニ隔斷サル、ノ患無ケレハ務テ遠  
ク前ニ出ツルヲ利アリトス野衛ヲ配布スルノ地近ニ  
過クルトキハ敵已ニ襲來ルトキニ非ザレハ之ヲ報告  
スル能ハズ是レ大失策ナリ野衛ノ前ニ出ツル距離最  
近キ者ヲ一十歩若クハ一千二百歩トス是レ其常則タ  
リ而シテ野衛ノ互ニ相距ルノ度ハ六百歩ニ過クルヲ無  
シ夜間又霧深キ日等ニテハ多クハ右ノ距度ヲ減少シ  
或ハ中間野衛ヲ置クヲトス

第十八章 野衛ヲ布クニ方テ先ツ其司令官ニ告ルニ  
左右比隣ノ野衛ノアル地最注目スベキ地已ムヲ得ス



シテ退却スルトキノ歸陣ノ法前軍監察ノ命ヲ蒙ル首  
長或ハ又上長ノ名報告ヲ傳フヘキ地方野衛ノ間ヲ過  
行クヲ許スヘキ人又之ヲ過行カシムルニハ證ヲ取ル  
ヘキヲ滌疑人凶命人又敵ノ使節ヲ遣スヘキ方等ノ件  
々ヲ以テス而ノ其司令官右ノ件々ニ就キ尙精細ナル  
事ヲ知得ムト欲スレハ宜ク之ヲ疑問スヘシ

第十九章 時令寒冷ニシテ野衛ニ火ヲ燃ス<sub>一</sub>ヲ要ス  
ルトキハ先ツ之ヲ主長ニ申シ其許ヲ受ケテ後之ヲ施  
スナリ火ヲ燃スニハ地形ヲ撰ミ丘陵牆壁等ノ如キ物  
ニ據リ勉メテ敵ニ向ヒ之ヲ遮蔽スルヲ要ス若シ依頼  
スヘキ者之シキトキハ野衛ノ傍ニ穴ヲ掘リ其土ヲ取

テ敵ニ面スル方ニ積堆シ以テ敵人ヲシテ穴中ニ燃ク  
火ヲ望ム能ハザラシム

第四編

野衛司令官ノ行作

第二十章 野衛司令官未タ其警守スベキ地ニ赴カザ  
ル前先ツ其最注意スベキ件々ヲ知ラズンバアル可ラ  
ズ

第二十一章 凡テ司令官ハ躬親ヲ四方ニ注目シ及其  
部下ノ者ヲシテ事々ニ注自セシメ以テ本隊ノ守衛警  
戒ヲ爲スヲ其職掌トス蓋其部下ノ者ヲシテ怠慢スル  
丁無カラシムムニハ躬先ツ之ヲ行フテ兵卒ニ示シ以



テ之ヲシテ奮發勉勵セシムルニ在リ而ノ須ク其部下ノ兵ニ注目シ且野衛ノ四邊ニ所見ノ諸件ニ注念スベシ故ニ司令官ハ暫クモ休憩セス以テ事アルトキ直チニ之ヲ知ルヲ切要トス

第二十二章 野衛ノ布置了レハ司令官ハ直チニ其部下ノ兵ノ名ヲ書記シ而ノ其小銃ノ裝填ヲ點檢ス爾後其野衛ノ半ヲ分チ窺ヲ之ヲ率ヒテ前ニ出テ主長ヨリ指揮スル所ノ地ニ於テ哨兵ノ位置ヲ定ム若シ主長ノ命ヲ受ケサルトキハ自ラ良トスル所ノ地ニ於テ之ヲ配布ス蓋之ヲ行スニハ宜ク第五編中ノ哨兵配布ノ法ヲ參考スベシ而テ司令官ハ諸種ノ職務ヲ兵卒ニ指揮

シ其職務ニ未熟ナル者アレハ懇ニ之ヲ教諭シ而メ其職務ノ切要ナルト怠慢ノ罪ノ大ナルトヲ諷ヘ且戒慎ヲ加フルヲ要スルト雖苟モ身ヲ全フスルヲ警ノ自己ノ安危并ニ全軍ノ安危ハ全ク其注目ノ精粗ニ關ルルヲ銘記セシム

第二十三章 野衛司外ニ至ル片夜間或天色暗冥ニシテ哨兵ノ配布危險ナルトキハ其司令官先ツ哨兵ヲ我近傍ニ置キ而メ更ニ屢斥候ヲ出シ以テ愈警戒ヲ加フルヲ要ス

我守ラムト欲スルノ地已ニ敵兵ノ爲ニ領セラレトキハ直チニ之ヲ報告シ而メ野衛司令官ハ勉メテ我兵



ヲ退クテ潜伏ヒシメ以テ命令ノ來ルヲ俟ツ  
 第二十四章 野衛ノ司令官ハ其布陣スル地方ノ形勢  
 ヲ熟知スルヲ切要トス之ヲ熟知スルノ手段ハ親ラ其  
 地方ヲ搜索シ又之ヲ其土人或旅客ニ問ヒ又地圖ヲ携  
 フルトキハ之ヲ點檢スルニ在リ就中本道岐路前面ノ  
 狹隘河川淺瀬橋梁又近隣ナル都府村落山家ノ名并ニ  
 彼此地處ノ距離等ヲ知ルヲ最須要ナリトス  
 第二十五章 敵兵近キニ在ルトキハ野衛司令官宜ク  
 敵ノ前軍及其本軍ノアル地ヲ搜索シ而シテ精細ニ敵ノ  
 運動ニ注意スベシ一ニノ占驗ニ因リ時アリテ敵ノ運  
 動并ニ其陣處ヲ知得ルコトアリ例ヘバ非常ノ號騷按ス

ルニ號叫發砲ホヲ謂フナリ又塵埃ノ高ク颯ルホハ敵  
 兵將ニ運動ヲ起シ或ハ已ニ運動セシ兆ナリ塵埃颯リ  
 テ敵陣ニ近ヅクハ多ク敵陣ヘ援兵ノ來ル徵トシ而シ  
 塵埃ノ遠サカルハ退軍ノ證トス民家ヲ燒キ橋上砲車  
 及運車ノ警アリテ漸クニ遠カリ或警火ノ整列スル等  
 ハ共ニ皆退軍ノ兆ナリ又警火露營火ノ形ニ從テ敵陣  
 ノ位置ヲ察スヘシ敵多ク火ヲ燃スハ多クハ共兵衆ヲ  
 聚屯スルノ地ナリ  
 第二十六章 野衛司令官ハ野衛及哨兵ニ所示ノ尋常  
 號騷ノ外更ニ其部下ノ兵ニ一ニノ暗號ヲ教ヘ以テ暗  
 冥ノ際ト雖互ニ能ク辨別スルニ供ス例ヘハ小銃ヲ敵



キ一ニノ音異ナル音響ヲ爲ス等即其暗號ナリ哨兵晝  
間切要ナル事ヲ發明スルモ聲ヲ揚テ之ヲ野衛ニ報シ  
得難キトキハ則高ク小銃ヲ撃ケ或ハ其率帽カウチガコツラ  
小銃上ニ附ケ之ヲ舉クル等ノ如キ一ニノ記號ヲ用ヒ  
以テ報告ヲ行フヲ要ス野衛中兵卒若シ此命スルトキ  
ハ司令官直チニ其答號ト約シ置タル暗號ヲ變シ而シ  
之ヲ其本隊及比隣ノ野衛ニ報告ス

第二十七章 野衛司令官ハ時々其番處ヲ巡視シ以テ  
哨兵ノ勉不勉ヲ點檢ス而シテ司令官之カ爲ニ我居位ヲ  
去ルトキハ必之ヲ其次級ノ者ニ告ケ以テ暫クモ號令  
官ヲ欠クコト無カラシム

第二十八章 野衛當直交代ノトキハ晝夜ニ拘ハラヌ  
司令官先ツ新番兵ノ小銃ノ裝置能ク點放ニ適スルヤ  
ヲ檢査シテ後親ラ出テ番兵ノ居位ヲ指揮シ而シテ老練  
ノ兵卒ヲシテ最遠隔セル地又危險ナル地ヲ守ラシム  
復哨兵ヲ出ストキハ老卒ト知卒トヲ編合シ同地ニ配  
布シ以テ知卒ヲシテ老卒ノ所行ヲ導ハシム而シテ當直  
ヨリ歸ル所ノ兵卒ハ野衛ノ司令官ニ謁シ乃其目撃セ  
ル件々ヲ申ス

第二十九章 哨兵ノ交代ニハ分明ナル號令ヲ用フル  
無シ其交代ノ須次正フノ詳論ナルヲ要ス

第三十章 野衛司令官ハ斷ヘス斥候ヲ出シ夜間ニハ



殊ニ然リ以テ其哨兵ノ職ヲ急ラサシム而シテ番兵ノ  
同時ニ眠ルヲ禁シ其半少クモ其四分一ハ必醒寤シ以  
テ不虞ニ備フルヲ要ス而メ或ハ番兵ヲシテ舉テ軍裝  
ヲ着ケシメ小銃ヲ足傍ニ立テシムルヲ要スルコトアリ  
哨兵ノ一處ニ於テ銃聲一發スルトキハ則野衛舉テ小  
銃ヲ執リ司令官ハ伍長一名ニ兵卒二名或三名ヲ屬シ  
テ之ヲ遣シ其發銃ノ原因ヲ求メシム而メ軍裝セシ兵  
士近來ルトキハ野衛モ亦銃ヲ執リ是ニ於テ伍長一名  
ト兵卒二名ヲ出シ以テ來ル所ノ兵士ヲ點視シ警戒ノ  
爲ノ件々ノ疑問ヲ爲サシム蓋其疑問ノ件々ハ次ノ第  
五編中近來ル兵士ニ哨兵ノ疑問スベキコトヲ記セル條

ニ詳ナリ

第三十一章 斥候ヲ郊野ニ出ストキハ窺明ニ至ルモ  
野衛必小銃ヲ執リ軍裝ヲ脱セス以テ斥候ノ還リテ事  
ノ有無ヲ聽得ルニ至ル而シテ其斥候ハ天已ニ明クルノ  
後ニ非ザレハ歸來ルコト無シ

第三十二章 野衛ハ別ニ命令ヲ受ケザレハ軍禮ヲ行  
フ爲ニ軍裝ヲ帶ブルコト無シ

第三十三章 本日當直ノ上長或野衛所屬ノ隊長或本  
隊司令官等野衛ニ近來ルトキハ則野衛司令官出テ其  
長將ヲ迎ヘ其所問ノ件々ヲ辨明ス

第三十四章 敵ノ使節或ハ敵ノ亡命人近ヅキ來ルト



キ野衛司令官之ヲ律遇スルニハ主長ヨリ命ゼラル、  
所ノ法律ニ從フモノトス使節來ルトキハ必之カ爲ニ  
報告ヲ爲シ而メ使節ノ直チニ我哨兵線ヲ過行クヲ許  
サス主長ノ命ヲ俟ツトキハ使節ヲシテ外ニ面ゼシム  
亡命人來ルトキハ先ヅ其兵仗ヲ奪テ後ニ非ザレバ敢  
テ哨兵線ヲ過行カシムル無シ又亡命人ノ數多キトキ  
ハ野衛司令官兵卒三名或四名ヲ遣シテ之ニ近カシム  
夜間亡命人到ルトキハ之ニ注意スルヲ晝間ニ倍シ野  
衛外ニ於テ嚴密ニ守護ヲ加ヘ而メ翌朝ニ至リ更ニ常  
律ニ從ヒ之ヲ處置ス野衛ノ兵卒ハ紹テ敵ノ使節及亡  
命人ト談話スルヲ許サス且輕卒ニ亡命人ノ言ヲ信用

スル勿レ

第三十五章 竊カニ哨兵線ニ入ラムト欲スル人又哨  
兵線内ニ滯疑人來ルトキハ必捕ヘテ檢査シ而メ其旨  
趣ヲ報告ス

第三十六章 野衛司令官ハ必書記具少クモ紙ト石筆  
ヲ帶ブルヲ要ス尋常ノ報告ハ司令官ノ所任ナリト雖  
敵軍ノ運動又敵陣ヘ新兵ノ來ルト屢敵ノ斥候近來ル  
丁敵ノ間諜ヲ捕フル丁或ハ野衛中ノ兵士亡命スル等  
ノ如キ重大ノ事件アルトキハ直チニ其狀ヲ書シ以テ  
主長ニ贈ル而メ若シ之ヲ書スニ猶豫無キトキハ口訣  
ノ報告ヲ爲ス報告ノ文ハ書體明亮ニメ讀易キヲ主ト



シ而ノ記者ノ爵位ノ階級ヲ其名ノ傍ニ并録スルヲ要  
ス又非常ノ報告文中ニハ必其發出ノ時刻ヲ詳記ス  
第三十七章 野衛ハ敵兵襲來リテ之ニ追ルニ非ザレ  
バ敢テ戦争ヲ爲ス丁無シ蓋野衛警戒ヲ加フルノ嚴密  
ニシテ而ノ其司令官ハ敵ノ動靜ヲ伺ヒ直チ之ヲ報告  
シ以テ援兵ヲ得或本軍ノ指揮ニ因テ處置ヲ爲セハ曾  
テ是ノ如キ不意ノ侵襲ニ遇フ丁無シ然レモ未タ援兵  
ヲ得ス又本軍ノ指揮無キトキ忽然急襲ニ遇ヘハ則司  
令官機ニ應シ能ク襲來ル兵ノ多寡ヲ探リ之ニ應シ以  
テ適宜ノ處置ヲ行フ而シ此時司令官ハ發火ヲ命シ或  
ハ他ノ記號ヲ以テ他ノ野衛并ニ後面ニ所備ノ兵ニ報

スルニ敵ノ襲來ル丁ヲ以テス司令官ハ敵ノ多衆ノ迫  
來ルニ非サレバ曾テ其居位ヲ棄テ、逃ル、丁無シ若  
シ已ムヲ得ズノ退却スルトキハ預メ所定ノ路ニ沿テ  
歸リ必須次ヲ整ヘ且警戒ヲ加フルヲ第一トス野衛侵  
襲ヲ受クル丁極メテ急遽ニシテ預メ防禦ノ策ヲ施スノ  
猶豫無キトキハ聚ムル所ノ兵其多寡ニ拘ハラズヲ以  
テ率然敵隊ヲ衝キ破リ過去テ後迂路ヲ回テ退却スル  
ノ外絶テ好手段アル無シ

第五編

哨兵配布ノ法及哨兵ノ職務

第三十八章 諸野衛ヨリ所出ノ哨兵ハ共ニ一線ヲ爲



人ヲシテ竊カニ其線ヲ過行クヲ能ハザラシム  
第三十九章 哨兵ヲ置クノ地ハ能ク其周圍四方ヲ觀  
望スルニ便ニメ而テ敵ヨリ我ヲ認ムル能ハザル處ヲ  
妙トス是ノ如キ利ヲ得ムニハ地形ヲ察シ丘陵小林樹  
叢等ノ如キ物ニ倚リ善キ居位ヲ擇ビ以テ已ラテ蔽ス  
ルニ在リ哨兵ヲ丘陵上ニ置クトキハ全ク其絶頂上ニ  
立タシメス但四方ヲ觀望スルニ便ナルヲ度トス而シテ  
夜間ニハ之ヲ丘陵ノ麓野衛ニ面スル方ニ下ラシム是  
レ暗冥ノトキハ上ヨリ下ヲ望ムヨリモ下ヨリ上ヲ  
仰見レハ物能ク分明ナルヲ以テナリ其他哨兵ヲ出ス  
ニハ其互ニ能ク望見テ以テ人ヲシテ竊カニ近來ルヲ

ヲ得ザラシムルヲ大切要ノ事トス  
哨兵ノ位置ハ其野衛ヨリモ亦望見ルニ便ナルヲ要ス  
而シテ哨兵ト野衛ノ間ニ小流沼澤等ノ如キ阻碍アルト  
キハ互ニ隔斷スルノ患アリ宜ク之ヲ避クヘシ  
第四十章 最敵陣ニ近キ地又最危檢ナル地ニハ一處  
ニ複哨兵卽兵卒二名ヲ一組ト爲ス者ヲ置クヲ常トス  
第四十一章 哨兵ノ地位野衛ヲ離ル、丁三百歩乃至  
四百歩ニ過キザルヲ常則トス但地利ヲ撰ムガ爲ニ此  
常則ヨリモ遠ザカルヲ無キニ非ス而シテ暗夜又霧深キ  
時ニハ哨兵ヲ近ク聚メ或ハ兵卒ヲ加ヘ哨兵線ヲ堅固  
ニシ以テ入ノ私カニ通行スルヲ防クヲアリ



第四十二章 哨兵ハ最精密ニ四方ニ注目シ殊ニ敵陣ノ方ヲ探索シ居常ニ其兵仗ヲ備ヘ以テ巳ヲ防キ或野衛ニ報告ヲ行フノ備ヲ爲スヲ要ス哨兵ノ居處野衛ニ近キトキハ兵衆ノ近來ル毎ニ之ヲ通知セシム若シ其距離大ニノ通知シ難キトキハ則之ヲ其最近接セル所ノ哨兵ニ報シ或ハ其曾テ所約ノ記號ヲ舉グ又複哨兵ヲ用フルトキハ其甲ハ必野衛ノ方ニ報知ヲ爲シ其乙ハ近來ル人ニ注目スル丁トス而メ近來ル人アルトキハ晝夜ニ拘ハラズ必直チニ止レト呼ブ呼バハレト尙止ラスシテ近來ルトキハ則火撃ヲ行フ形ヲ示シ之ヲシテ強テ停止セシム而メ是ノ如ク脅迫スルモ猶止マ

ザレハ之ニ向テ火撃ス

第四十三章 其他哨兵ハ已ムヲ得ザルニ非ザレハ點發ヲ爲サズ無益ノ騷騷ハ務メテ用ヒザルヲ良トス

第四十四章 哨兵ノ安危并ニ野衛及自餘ノ兵ノ安危ハ唯哨兵ノ警戒注目ノ精粗ニ關ル者ニメ暫クモ其任ヲ忽ニスル勿レ風雨ノトキ又夜間ニハ其最危險ナルヲ以テ殊ニ警戒ヲ加ヘズシバアル可ラス而メ哨兵ハ慶停立シ耳ヲ歇テ聽聽シ其哨處ニ在ル間ハ暫クモ其耳目ヲ怠ル勿レ

第四十五章 軍裝セシ兵士哨兵ニ近來ルトキハ哨兵之ヲ叫喚ス而メ更ニ能ク之ヲ檢査セムニハ哨兵唯其



兵士中ノ一名ヲシテ先ツ其小銃及他ノ兵器ヲ脱去ラシメテ後近來ラシム若シ答訃ノ約アルトキハ哨兵先ツ試ニ之ヲ近來ル人ニ詰問ス然レモ是ノ如キ兵士其答訃ヲ知ラザルト亦無キニアラズ若シ確徵ヲ得ムト殺セハ宜ク左ノ疑問ヲ行フベシ汝が所屬ノ「ジ」トシト又「バ」タイロシノ司令官ハ誰ソヤ汝が最後ニ守リシ所ノ兵舎又舎營ハ何處ニ在リヤ云云  
危疑スベキ事アルトキハ哨兵之ヲ止メテ過去ラシメズ斥候或交代ノ兵ノ來ルヲ待ツ蓋哨兵ハ早已ニ之ヲ野衛ニ通知スルノ便ヲ得ルト亦多シ

第四十六章

銃前ニ立ツ所ノ哨兵卒又諸人ノ

近來ルヲ視レハ速ニ之ノ其司令官ニ報ス而メ近來ル者ヲ嚴密ニ搜索セムト欲スルトキハ則之ヲ呼留ム  
第四十七章 哨兵不意ニ敵ノ爲ニ襲ハル、トキハ直チニ點放ヲ行フ而後敵相繼來ルトキハ哨兵徐々トノ野衛ノ方ニ退却ス

第六編

斥候「ハ」トロイ

第四十八章 斥候ノ職務ハ野戰ノトキ軍兵ヲ守衛シ且敵情ヲ搜索スルニ切要ナル術ノ一タリ  
第四十九章 斥候ハ下長或伍長ヲシテ其指揮ヲ司ラシム而ノ其兵員ハ其目的ト其行方所ノ遠近ニ隨ヒニ



名ヨリ十名ニ至ル者ト人此編ニ所擧ノ者ハ小歩兵斥候ノミ小歩兵斥候ハ遠ク前軍ヲ離ル、能ハス其距離ハ敵陣ノ遠近ニ由テ大ニ異ナル者ナリ  
第五十章 斥候ノ主務ハ野衛及哨兵ノ勉不勉ヲ監察シ敵情ヲ探リ敵ノ動靜ヲ伺ヒ比隣セシ野衛ノ間及他ノ哨處トノ間ヲ通達スル等是ナリ

第五十一章 野衛ヨリ斥候ヲ出スノ法則及其時刻自ラ所定アリ且主長ノ命令種々アリト雖野衛司令官其哨處ヲ警備シ又事情ヲ搜ラム、要スルトキハ則何レノ時ニテモ獨斷ヲ以テ斥候ヲ出ス、得  
第五十二章 九テ斥候ヲ分テ三種ト爲ス曰檢査斥候

ヒシテールバトロイレ曰探索斥候フルケニグスバトロイレ曰間諜斥候スロイフバトロイレ是ナリ  
斥候ノ種類異ナリト雖其所務ハ則一ニ歸スルヲ以テ強テ其名號ノ異ナルニ拘泥スル勿レ

第五十三章 哨兵ノ勉不勉又其精粗ヲ檢査スル職ヲ奉ズル者ヲ名ケテ檢査斥候ト曰フ此斥候ハ下長或伍長一名及兵卒二名或三名ヲ以テ編次ス  
檢査斥候ハ近ク哨兵線ノ内邊ニ沿テ行キ而ノ時々其線外ニ出テ必精密ニ哨處ノ安危ニ注意シ若シ非常ノ事ヲ認ムレハ則直チニ之ヲ近隣ノ野衛ニ報ス其他警戒ヲ加ヘテ徐々ニ進行キ而ノ時々停立シ以テ耳ヲ敵



テ、聰聽ス又此種ノ斥候野衛中ヲ巡ルトキハ進ミテ  
比隣ノ野衛ニ至リ事ヲ通知ス

第五十四章 敵陣ノ距離遠カラザルトキハ則時々小  
斥候即探索斥候ト名クル者ニノ下長一名ヲ以テ其司  
令ト爲スヲ法トスヲ出シ以テ敵情ヲ搜求スルニ供ス  
地形隔斷シテ騎兵騎兵斥候ヲ名ケテヘズト曰フヲ  
用ヒ難キトキハ此斥候殊ニ切要ナル者トス其一隊六  
各ナルトキハ二名ヲ離シ前ニ出シ以テ地勢ヲ探ラシ  
ム又八名ヲ以テ一隊ト爲ストキハ更ニ二名ヲ分チ時  
宜ニ應シ其右側或左側ニ消テ進マシム此分散セシ兵  
本ハ必斥候ト連絡スルヲ要ス故ニ其距離遠キニ過ク

ル莫レ

第五十五章 此斥候ハ地利ニ依リ已ヲ速候シ且或眞  
ヲ加ヘ以テ前ニ出テ殊ニ敵ノ伏兵ヲ設ケシ地ニ注意  
スルヲ要ス而シテ前面ノ兵或側面ノ兵進出ルトキハ斥  
候司令官常ニ之ヲ注目シ以テ其非常ノ事ニ遇フヲ見  
ルトキ直チニ適宜ノ處置ヲ爲スニ供ス例ヘハ前面側  
面ノ兵佇立スルトキハ斥候ヲ亦停止セシメ以テ其佇  
立セシ原因ヲ知ルニ至ル

第五十六章 斥候ノ司令官ハ其漸ク敵ノ前軍ニ近ツ  
クニ隨ヒ益警戒ヲ加ヘ地利ニ依リ已ノ速候シ而シテ其  
一名敵目ニ入ルトキハ全隊爲ニ發覺スルノ恐ヲハラ



以テ其前面或ハ側面ノ兵ヲ近接セシメ或ハ全ク退却  
セシメ勉メテ大道村落及人家ヲ避ケ若シ人ニ遇フト  
キハ之ヲ捕ヘテ以テ其敵ニ内通スルヲ防キ且一二人  
詰問ヲ爲シ以テ事情ヲ探ル然レモ其巧者ヲ漫ニ信用  
スル勿レ敵地ニ於テハ殊ニ然リ

第五十七章 既ニメ敵陣ニ近ツケハ司令官務メテ其  
兵ヲ潜伏シ親ラ其兵卒中ノ二名ヲ伴ヒ最戒慎ヲ加ヘ  
便宜ノ地小高キ處等ヲ云フニ至リ以テ敵陣ヲ眺望シ  
其野衛ノ地位并ニ其勉不勉ヲ察シ敵軍ノ編成歩騎砲  
中何レヲ用フルヤヲ探リ敵一二ノ野堡ヲ築キ以テ防  
禦ヲ爲ス如何ヲ知リ敵陣ノ地ノ廣狹ヲ望ミテ其兵ヲ

多寡ヲ測リ且敵ノ陣ヲ移ス備ヲ爲ス如何又其移陣ノ  
方ヲ見ル等ノ職務ニ注意スルヲ要ス猶宜ク上ノ二十  
四章及二ト五章ヲ參照スベシ此斥候司令官ノ處置ハ  
暴勇ニノ且警戒ヲ加フルヲ要ス

第五十八章 斥候ノ行進隱密ナルハ大ニ其良功ヲ奏  
スル上ニ所論ヲ以テ明ナリ故ニ斥候ヲ出スニハ夜  
間ニ於テスルヲ最妙トス而シテ其發行ノ時刻ハ黎明ノ  
頃正ニ敵ノ前軍ニ達スルガ如ク定メ更ニ前進セムニ  
ハ宜ク敵ノ斥候ノ退クヲ待ツベシ否ザレハ爲ニ飛覺  
サルノ大患アリ既ニメ敵ノ斥候歸リテ後ハ敵多ク  
ハ安逸シテ怠ル者トス



第五十九章 下長一名二屬兵ヲ附シ之ヲ出シ以テ敵ノ小野衛ヲ倒ニセムトスルトキ其行進ニ警戒ヲ加フルヲ猶上ニ所舉ノゴトシ

敵ノ小野衛ヲ不意ニ襲フ好機會ハ黎明ノ頃トス又風雨ノ夜敵之ヲ凌クニ苦辛シテ他ニ心ヲ用ヒザルトキモ侵襲ニ利アリト人其侵襲ハ極メテ猛烈ナルヲ要ス此時一二ノ兵卒ハ留テ後拒ト爲リ以テ侵襲ヲ誤ルトキ退來ル兵ヲ援助收容スルニ供ス而シテ侵襲功ヲ奏スルトキハ則速ニ俘虜ヲ率テ歸ルヲ要ス是レ敵必野衛ヲ援來ルヲ以テナリ

第六十章 急襲ヲ行ヒ以テ敵ノ哨兵ヲ捕ヘムト欲ス

ルトキハ其兵二名若クハ三名ニ過キザルヲ要ス其兵最靜カニ匍匐シ至リ而シテ忽然之ニ逼リ敵若シ叫喚シ或肯ゼザルトキハ則之ヲ殺スト跡シテ以テ之ヲ捕フ

第六十一章 夜行ノトキハ斥候能ク其兵ヲ集合シ以テ路ニ迷ハズ敵手ニ階ラザラシム一人敵手ニ階ルトキハ全隊發覺シ遂ニ俘虜ト爲ルナリ

第六十二章 斥候司令官其任ノ目的ヲ達シテ後ハ則直チニ退却スルヲ良トス其退クトキハ則他路ヲ經テ以テ更ニ多ク探索ヲ得ル爲ニス

第六十三章 斥候退來リテ後ハ其司令官其所探索ヲ



簡約分明ニ報告ス或之ヲ書記シテ以テ申ス其報告文中ニハ諸般ノ景況ヲ載セ些モ遺漏ナカラシム  
第六十四章 斥候已ムヲ得スシテ村落間ノ路ヲ過ク  
ルトキ又村落中ヲ搜索シ敵ノ有無ヲ察スルノ命ヲ受ケシトキハ次法ニ依テ之ヲ行フ斥候ノ司令官ハ村外三百歩乃至四百歩ノ地ニ至リ停止シ勉メテ其兵ヲ潛伏シ是ニ於テ伍長一名ニ兵卒二名ヲ附シ之ヲ村落ノ方ニ遣ス伍長ハ戒慎ヲ加ヘ以テ前進シ敵ヲ見ザレバ則村内ニ至リ第一ノ人家ニ入り或其所遇ノ第一人ニ問フニ村内敵ノ有無ヲ以テス敵アルトキハ大約其衆寡等ヲ探リテ後直チニ之ヲ返報ス然レモ敵無ント答

フルトキハ猶他人野取ノ類ニ問ヒ更ニ精密ノ探索ヲ爲ス蓋其第一人ノ所言ヲ全ク信用スル勿レ但其人ヲ留メ伴テ斥候司令官ノ方ニ歸ルヲ良トス右ノ件々ヲ行フニハ敵地ニアルトアラサルトニ由テ置處大ニ異なる者トス敵地ニ入りテハ多ク反應サル々ノ恐アルヲ以テ警戒ヲ加フルト最嚴密ナラスンバアル可ラズ斥候司令官歸來ル兵卒ノ報告ニ因テ已ニ敵兵ノ村落ヲ守リシトヲ知レハ退却ノ備ヲ爲スヲ常トス然レモ時宜ヲ見テ先ツ敵兵ヲ驚動シ以テ其多寡ヲトシテ後退却スルヲ良トスルトモ亦アリ  
前ニ所出ノ兵卒村内敵ノアラザルトヲ通ズレハ斥候



ハ戒慎シテ前ニ進ミ大屋園圃ノアル地ノ方ニ至リ以テ敵ノ隱伏ヲ搜索ス

斥候司令官敵地ニ入りテハ善キ土人一名或二名ヲ服シテ左袒セシメ以テ竊カニ敵情ヲ探ル

第六十五章 夜間村落ヲ搜索セムニハ二名先ツ近傍ナル園庭ニ入り燭ヲ燃セル家ニ至リ窓戸ヨリ之ヲ透視ス若シ燭光ヲ見ザルトキハ已テ潛匿シテ人ノ來ルニ至リ人至レハ則之ヲ捕留ス夜間某地ニ多ク騷擾アルトキハ敵アルヲ兆ス而メ靜謐寂寞タルトキハ敵無キヲ知ル

第六十六章 斥候小林中ヲ搜索セムト欲シ林間通行

スベキトキハ則斥候ヲ分テ三部ト爲シ其一ヲ中央ニ向ハシメ其二ヲ兩側ニ向ハシム而メ林前ニハ兩名ヲ留メ以テ危險ナル事アルトキ號報ヲ爲スニ供ス斥候將ニ林外ニ出ムトスルトキ最警戒ヲ加ヘ先ツ林周内ニテ隊ヲ聚合シテ而後始メテ平地ニ出ヅルヲ要ス

第六十七章 狹隘甚長カラザル者ノ搜索モ亦小斥候ヲ以テ之ヲ行フ可シ斥候全隊同時ニ狹隘中ニ入ラズ必狹隘前ニ百歩乃至三百歩ノ地ニ停止シ先ツ二名ヲ出シ第一ノ歧路ニ至リ隨テ且進ミ且探ラシム而メ斥候ハ徐々ニ追跡シ必前ニ出ツル兵卒ニ注目ス斥候同路ヲ經テ歸ラムトスルトキ其司令官背面ヨリ襲ハレ



或隔斷セラル、ヲ恐ル、トキハ挾隘ノ口ニ兵卒二名ヲ留メ以テ其斥候ノ後面ニ一ニノ危難アルヲ見ルトキ砲號等ニテ之ヲ報知スルニ供ス

第六十八章 戦争ノトキ所用ノ斥候中間諜斥候ヲ以テ最切要ノ者トス敵軍已ニ近キニ在リ斷ヘズ其運動ヲ探索スルニハ其利甚大ナリ間諜斥候ト爲スニハ僅ニ兵卒二名ヲ用ヒ以テ屢搜索ヲ反復セシム其兵卒ハ能ク已ヲ隱匿シ極メテ警戒ヲ加ヘ静カニ進ミ又匍匐シ敵ノ前軍ニ達シ且地利ニ依リ已ヲ潜伏シ竊カニ敵ノ前軍中ニ入ル

第六十九章 凡テ斥候ハ敵ト戦争ヲ爲サズ務メテ之

ヲ避クルヲ良トス故ニ斥候敵ヲ見テ而ノ敵ノ爲ニ見ラル、ト無キトキハ潜伏シ以テ退却ス其司令官ノ處置ハ時ノ景況ニ從フ者トス之ニ及ノ斥候早已ニ敵目ニ入り乃侵襲サレ而ノ敵勢多キトキハ則徐々ニ退却シ且敵ヲ亂射シ以テ之ヲ支ヘ自ラ地利ヲ撰ブヲ要ス斥候不意ニ敵ニ當ルトキハ粗暴ニ敵ヲ襲撃シ以テ歸路ヲ開クヲ良策トス

第七十章 斥候夜間敵ノ爲ニ呼バル、トモ之ニ答ヘス勉メテ潜伏シ而後宜ク敵ヲ避クベシ

第七編

野衛ノ交代ノ法



第七十一章 野衛ノ交代ハ多ク黎明ニ於テス是レ地  
時ハ最危難ナルヲ以テ其兵ヲ倍セムガ爲ナリ  
第七十二章 野衛司令官新衛ノ來ルヲ見レハ其兵卒  
ヲシテ軍裝ヲ爲サシム新衛ハ地勢ノ便ニ隨ヒ歸來ル  
野衛ノ左側ヨリ進ミ或ハ其正面ニ向フ者トス  
第七十三章 新衛ノ司令官ハ先ツ其兵卒ニ教諭ヲ附  
シ未々哨兵ノ交代ニ至ラザル前舊衛ノ司令官ヨリ諸  
般職務ノ法并ニ警備ニ所要ノ指揮ヲ聞キ且疑シキ  
アレハ逐一之ヲ問ヒ又夜衛ノ守備ニ關ルハ小事ト  
雖悉ク之ヲ明ニス  
第七十四章 是ニ於テ新舊兩司令官所要ノ伍長及兵

卒ヲ率レテ共ニ哨兵ノ方ニ至リ眼前ニテ哨兵ヲ交代  
セシメ且其従前ノ定律ヲ傳フルヲ監察ス  
右ノ指揮ノ間新衛司令官ハ地形ヲ觀察シ而ノ舊司令  
官ハ之ニ地利ノ要害ヲ指點シ精細ニ四方ノ形勢ヲ教  
ユ  
第七十五章 上官ノ人哨兵ノ布置ヲ定メサルトキハ  
新衛司令官必シモ舊衛司令官ノ所定ニ從フヲ要セス  
哨兵ノ配布誤アレハ則之ヲ變シ危險ナラザル地ニ至  
ラシノ後ニ自ラ行テ其報告ヲ爲ス然レモ上官ノ人哨  
兵線ヲ定メシトキハ野衛司令官自ラ之ヲ變ズル能ハ  
ズ但已ムヲ得ザルトキハ則別ニ哨兵ヲ増加シ以テ直



チニ之ヲ報知ス

第七十六章 交代已ニ了レハ舊野衛ノ司官其兵卒  
ヲ率ヒテ幕營露營又舍營ニ遷ル

第八編

行軍ノトキ警備法

第七十七章 各隊其兵數ノ多寡ニ拘ハラズ運動ゾト  
キモ亦能ク警備法ヲ盡シ且早ク敵ノ動靜ヲ知ルヲ要  
スルコト猶靜止ノトキニ於ルガゴトシ其警備ヲ行フノ  
法ハ若干ノ兵卒ヲ出シ以テ本軍ヲ護衛シ精細ニ敵ノ  
動靜ヲ探リ以テ應變ノ策畧ヲ施スニ在リ  
第七十八章 行軍ノトキハ四方ヨリ侵襲ヲ受クルヲ

以テ之ニ應シテ警備法ヲ施サズンバアル可ラズ故ニ  
兵卒ヲ出シ護衛ヲ爲スハ獨正面ノミナラズ異面背面  
ニ於ルモ亦然リ是ヲ以テ前衛異衛後衛ナル者アリ兵  
隊極メテ小ナリト雖此警備兵無キトキハ絶テ行ク能  
ハズト云

第七十九章 是ノ如ト小隊兵 本軍ノ行進ヲ庇護ス  
ル者ヲ總稱シテ遷動前軍ベウエーグバールホルホ  
ステントト曰フ

前衛ノルワフト

第八十章 前衛ハ本軍ノ通行スベキ道路及地形ヲ探  
索シ而メ敵ノ遠近動靜ヲ報知スルノ用ヲ爲ス



第八十一章 前衛ノ兵數ハ固ヨリ本軍ノ多寡ニ關ル者ニノ小兵隊三十名若クハ四十名ナルトキハ前衛ノ兵數其本軍ノ三分一乃至四分一ナルヲ常トス

密氏曰歩兵一「バタイロン」六百名ヨリ八百名ニ至ル者ヲ以テ一例ヲ舉グルトキハ前衛ヲ百名トス中ニ就テ本衛五十名前兵二十六名異兵各十二名トス而メ本衛ノ「バタイロン」前ニ出ヅル距離大約四百歩乃至五百歩而メ前兵ハ本衛ヲ距ル一二百歩乃至三百歩先鋒ハ前兵ヲ距ル一二百五十歩乃至二百歩異兵ハ前衛ノ左右ニ離ル、一大約三百歩乃至四百歩トス又歩兵一「コムバグニー」百五十名乃至二百名ナル者

ヲ以テ例スルトキハ前衛ヲ四十名トス中ニ就テ本衛二十名前兵十名異兵各五名トス而メ本衛ノコムバグニーヲ距ル度二百歩乃至三百歩前兵ハ本衛ヲ距ル一二百歩乃至百五十歩先鋒ハ前兵ヲ距ル一二百歩乃至百五十歩異兵ハ前衛ノ左右ニ離ル、一大約二百歩トス

第八十二章 行軍ノトキ前衛ノ本軍ヲ距ルノ度一定セシ規則曾テアル無シ是レ地形ノ險夷或晝夜ノ別或天色ノ陰晴等ニ由テ其遠近大差ヲ生スルヲ以テナリ但其概則次ノ如シ前衛、前ニ出ツル度ハ本軍不意ニ敵ノ爲ニ侵襲サル、一無フヲ報告ヲ得テ後尙防禦ノ



備ヲ立ツルノ猶豫アルヲ法トス然レテ前衛ノ本軍ヲ  
 距ル度遠キニ過ル勿レ遠キニ過ルトキハ輾ク隔斷ナ  
 ルノ患アリ故ニ本軍ト前衛トハ常ニ必相聯絡スル  
 ヲ要ス例ヘハ一「コムバグニ」ノ如キ小隊ニメ晝間尋  
 常ノ地ヲ行クニハ其前衛前ニ出ツルヲ二百歩乃至三  
 百歩トス而ノ小隊ノ兵員一「コムバグニ」ヨリ少キト  
 キハ此距離隨テ減ズルナリ

第八十三章 更ニ前衛ヲ分テ幾小分ト爲ス即其正面  
 ニハ先鋒スヒツヲ附セル前兵ヲ「イル、トル、ブ」アリ  
 其翼面ニハ翼兵セイトル「ブ」アリ蓋此小分ハ皆全隊  
 中ヨリ取ル者トス

今「コムバグニ」ヲ以テ前衛ト爲ストキハ就中テ其  
 一「ベロト」シヲ前兵ト爲シ而ノ前兵中ヨリ先鋒及翼兵  
 ヲ出スヲ通則トス

前衛ノ兵員一「コムバグニ」ヨリ少キトキハ則之ニ應  
 ノ前兵ノ多寡ヲ定ム凡テ前衛ノ半ヲ分テ前兵ト爲シ  
 前兵中ヨリ先鋒翼兵ヲ取ル「上」ニ所論ノ如シ而ノ前  
 衛ノ半ハ一處ニ聚合シ更ニ其一部ヲ從兵ト爲シ以テ  
 後ニ續ク縦隊即本軍トノ間ヲ聯絡スルニ供ス

前兵中ヨリ所出ノ先鋒ハ伍長一名兵卒六名ヨリ成ル  
 ヲ要ス就中テ伍長及兵卒二名ハ本軍ノ行クベキ道ヲ  
 經而ノ兵卒二名ハ道ノ右側ニ離レ又二名ハ道ノ左側



ニ離レテ進ミ以テ其左右ニアル人家或ハ他ノ物ヲ搜  
索スルニ供ス

第八十四章 故ニ前衛ハ下長一名伍長三名或ハ四名  
兵卒四十名若クハ四十八名ヨリ成リ上長或下長ヲ以  
テ其司令官トス是レ兵隊ノ小分一ベロトシ又「セキ  
チ」ナリ一ベロトシタルトキハ一「セキチ」ヲ以テ縦  
隊トシ又一「セキチ」タルトキハ半「セキチ」ヲ以テ縦  
隊トシ共ニ本軍ノ前ニ出ヅル「三百歩乃至四百歩」ト  
ス而ノ其一「セキチ」又半「セキチ」ハ前兵ト爲リ更ニ  
縦隊前ニ出ヅル「百五十歩乃至二百歩」トス前兵中ヨ  
リ伍長一名兵卒六名ヲ取り先鋒ト爲シ前ニ出ス「五

十歩乃至七十五歩」トシ而ノ更ニ適宜ノ「口」ト二名一組  
ノ者ヲ左右ニ出シ以テ前兵并ニ前衛ノ翼防ト爲ス或  
ハ前衛中ヨリ所要ノ翼防兵ヲ出シ以テ本軍ニマデ連  
續セシムル「丁」アリ  
前衛ノ布置法如左

前兵前衛前衛  
二百五十歩 百半歩乃至三百歩

本軍前出  
三百歩乃至四百歩

先鋒

前兵

前衛

三「口」

十二「口」



小前衛ト雖其布置ノ法ハ猶上ニ所擧ノゴトシ但其兵員ノ寡キニ應シテ小分隊ノ數減スルヲ異ナレリトスルノミ例ヘハ小隊三十名乃至四十名ノ者全ク獨立スルトキ其行軍ノ法ハ前衛ニ於ルト一般ニ總テ上ニ所擧ノ法則ニ准ス

第八十五章 然レ凡上ニ所載ノ一例ハ唯臨時ノ處置ヲ爲スニ所便ノ準繩ノミ故ニ必シモ深ク拘泥スル勿レ地形及他ノ景況ニ從ヒ以テ前衛各部ノ距離ヲ定ムル者トス其距離遠近同シカラズト雖其各部互ニ望見テ能ク應援ヲ爲スヲ要ス

第八十六章 前衛ハ警戒ヲ加ヘ親ラ不意ニ敵襲ヲ受

ケザル「第一ノ要務ナリ故ニ常ニ不虞ニ備ヘ能ク行軍ノ須次ヲ整フルヲ要ス

第八十七章 勉勵心カヲ竭クシテ以テ疲勞スル事ナキハ前衛司令官ノ最切要ナル任ナリ

第八十八章 其他前衛ノ職務ハ地勢ヲ探リ敵兵ヲ撃ミ敵ノ小隊我縱隊ノ行進ヲ滯止スル者ヲ驅逐シ且其探リ得シ要件ヲ縱隊ニ通知スルニ在リ

第八十九章 先鋒ハ警戒ヲ加ヘ敵兵ノ埋伏セル地ヲ見テ粗暴ニ之ニ近迫シ而ノ前衛中自餘ノ者ハ佇立シ以テ事ノ分明ナルニ至ル搜索スベキ地廣大ナルトキハ前衛ノ一部或ハ其全部モ亦之ニ用フ而メ前衛ノ職



勢ハ其前面ノ地并ニ異面ノ地ヲ精細ニ探索スルニ在  
其他行軍ノトキ諸般ノ地形ヲ探索スル法ハ已ニ斥候  
編ニ所論ノ如シ總テ敵ヲ見テ而メ敵ノ爲ニ見ラレザ  
ルヲ其要訣トス故ニ先鋒ハ高處ニ至ルモ直チニ之ニ  
登ラズ其一名先ツ高處ニ赴キ眺望スベキニ至リ其  
認メシ事ヲ眼證ニ或其報告ヲ爲ス

第九十章 先鋒敵ヲ見シトキハ直チニ之ヲ前矢ト前  
衛トニ報知シ而ノ前衛ハ更ニ之ヲ本軍ノ司令官ニ報  
知ス蓋先鋒ノ利ハ其長ク埋伏スルニ在ルヲ以テ敵ヲ  
見ルモ直チニ發砲スル勿レ但先鋒又前衛ノ一部忽然

敵ノ爲ニ襲レテ之ヲ本軍ニ報スルニ他ノ手段無キト  
キ唯發砲ヲ許スノミ否ザレハ切約ノ確信目標ヲ示シ  
以テ發砲ニ代ル

第九十一章 銃撃一發スレハ皆停止シ以テ發銃ノ原  
因ヲ探ル前衛ハ一頃ニ本軍ニ退クヲ禁ズ但其兵數寡  
キヲ以テ敢テ敵ト力戦セズ而ノ須次ヲ整ヘ徐々ニ退  
却シ以テ本軍ヲシテ適宜ノ處置ヲ爲スニ猶豫アラシ  
ム

第九十二章 夜ハ晝ヨリモ前衛ノ各部ヲ近ク集合シ  
而ノ其先鋒敵ヲ見レハ直チニ之ヲ報シ發砲ヲ嚴禁シ  
且號令ヲ低フシ至更靜謐ナルヲ要ス叫號騷擾ハ晝間



モ亦野戒ニメ夜間ハ殊ニ然リ先鋒全ク不意ニ敵ニ當  
ルトキハ則發砲ス是ニ於テ前衛ハ急進シ直チニ敵ヲ  
襲フ是レ此ノ如キ夜間ノ急襲ハ殊ニ敵陣ヲ潰乱セシ  
ムルノ大利アルヲ以テナリ

第九十三章 先鋒人ニ逢ヘハ必之ヲ留メテ前衛司令  
官ノ方ニ送り司令官是ニ於テ何處ヨリ來ルヤ何處ニ  
至ルヤ敵ヲ見タルヤ敵何レノ地ニ在ルヤ敵兵ノ多寡  
如何敵行進スルヤ又陣營ヲ布クヤ敵多ク斥候ヲ出ス  
ヤ等ノ詰問ヲ爲ス

而ノ其人ヲ放シテ歸ス一無シ危疑スベキ事アリ或ハ  
其地勢隱伏シ易キ處ニテハ更ニ之ヲ本軍ノ司令官ニ

送り或ハ從前ノ定律ニ從テ之ヲ處置ス

第九十四章 本軍停止スレハ前衛并ニ其屬部モ亦停  
止ス然レモ本軍停止スルトキ前衛ノアル地眺望ニ便  
ナラズ而ノ更ニ一二百歩行クハ則四方敞開スルトキ  
ハ必進出テ地利ヲ占メ以テ周圍ヲ展眺ス

異兵セイトルーパー

第九十五章 異兵ノ司務ハ行進セル縱隊ノ異面ヲ遮  
蔽シ左右ノ地形ヲ探リ敵ノ不意ニ縱隊ノ異面ヲ襲フ  
ヲ防クニ在リ

第九十六章 異兵ハ前兵中ヨリ出ツル者トス或前衛  
及本軍ヨリ出バル丁亦無キニアラズ然レモ地形隱蔽



シ天色晦冥或ハ敵近キニ在リテ異面ノ襲ヲ恐ル、ト  
キ等ニアラザレバ之ヲ前衛及本軍ヨリ出スト無シ而  
ノ前衛及本軍ヨリ出ストキ異兵ヲ以テ必シモ其左右  
ヲ蔽フヲ要セズ但敵ニ面スルノ片傍又地勢惡シキ片  
傍ヲ防クヲ以テ足レリトス

第九十七章 地形ノ險夷天色ノ陰晴晝行軍夜行軍等  
ニ由テ異兵ノ前衛及本軍ヲ距ルノ度ヲ定ム其距離百  
五十歩乃至二百歩ヲ以テ足レリトス而ノ中間ハ必  
共ニ相連絡スルヲ法トス

第九十八章 本軍ト異兵ノ間大澤大林河流等ノ如キ  
阻碍アルヲ許サズ異兵若シ是ノ如キ阻碍ニ遇フニ至

レハ本軍ノ傍ニ沿ヒ既ニメ阻碍ヲ過去レハ則本軍ノ  
翼ニ在リ以前ノ位置ニ復ス橋ヲ過クルトキモ亦本軍  
ニ近接シ過キテ後又以前ノ地位ニ復ス

第九十九章 其他異兵ハ必縦隊即本軍ト相並ビテ行  
クヲ要ス

第一百章 本軍故アリテ停止スルトキハ異兵モ亦停止  
シテ外方ニ面シ且其地方ヲ探索シ其所見ヲ報告ス而  
モ縦隊行クハ異兵モ亦行キ行軍中モ搜索セシトアレ  
ハ精密ニ之ヲ報告ス

後衛アフテルワフト

第一百一章 後衛ノ司務ハ軍兵ノ歸路ヲ殿シ勉メテ敵



ノ侵襲ヲ防扞スルニ在リ而ノ後衛ノ行進法ハ固クリ  
敵ノ尾撃ノ緩急ニ關ル者トス

第百二章 後衛ノ本軍ヲ距ルノ度モ亦一定セシ法ア  
ル無シ大低其距離本軍ノ應接ヲ受クルニ適スルヲ要  
ス

第百三章 後衛ハ久ク遲滯シ又縱隊ニ接迫スルヲ禁  
ズ而ノ殊ニ其間ノ隔斷スルヲ許サズ

第百四章 後衛モ亦小後兵ヲ率ユ猶前衛ノ前兵ヲ出  
スガゴトシ敵追撃シ來ルトキ後兵ハ後衛ニ接シ或ハ  
後衛ノ援助ヲ受ク

第百五章 後衛防戦ニ便ナラザル地ニ至レハ速力ニ

過去リ而ノ便宜ノ地利ヲ占ムレハ則此ニ停陣シ敵ヲ  
支ヘ以テ本軍ノ行進ニ害無カラシメ或ハ本軍ヲシテ  
布陣ヒシメ以テ尾撃シ來ル敵ヲ敗ルノ猶豫アラシム  
第百六章 時刻ノ猶豫アリ器具ノ備アルトキハ途上  
阻碍ヲ設ケ以テ敵ノ行進ヲ停滯スルヲ要ス故ニ敵兵  
ノ通行スベキ路ヲ毀損シ或ハ閉斷シ又橋梁ヲ破壊ス  
附録

運送隊コンゾーイ

第百七章 運送隊ハ軍須衣服金貨餽屬等ノ運搬ヲ司  
ル者ナリ

第百八章 運送隊ハ善キ護衛ヲ得サレハ絶テ行進ス



ル能ハズ此護衛ノ多寡ハ運送物ノ貴賤安危地形ノ險  
東行路ノ長短等ニ係リテ同カラズ

第百九章 運送隊大ナルトキハ之ヲ分テ幾小隊ト爲  
ス例ヘハ車數六十アルトキハ之ヲ三分シ各隊ヲ二十  
車ト爲シ每二十車ニ若干ノ宰領ヲ附ス宰領ハ他ノテ  
車ヲ聚合シテ散解センノス其嚮導タル者兵士ニアラ  
ザルトキハ殊ニ能ク注目シ其他運送隊ノ順次ヲ正シ  
守護ヲ爲スヲ其任トス

第百十章 道路ノ幅濶キトキハ車ヲ二行ニ並べ陸續  
相進マシム

第百十一章 最貴要ナル物ヲ載スル車ハ全隊ノ中央

ニ置キ都テ危險ナル處ヲ避ケ而メ其貴要ナル車ハ  
ニ級メ知ラシムル勿レ

第百十二章 兵卒ノ其糧糞ヲ車上ニ安ズルヲ禁ズ

第百十三章 車損ズルトキハ之ヲ路外ニ出シ以テ修  
理シ既ニメ成了レハ之ヲ車隊ノ尾ニ屬セシム而メ之  
ヲ修理シ難キトキハ其載荷ヲ他ノ車上ニ配分ス

第百十四章 地勢ト時宜ニ應シ時々小休ヲ爲ス此時  
後尾ノ車ハ進ミテ適宜ノ距離ニ復ス

第百十五章 休憩ハ預メ搜索セシ地上防禦ニ便ナル  
地ニ於テシ番兵及哨兵ヲ出シテ之ヲ警備ス但馬ハ車  
ヨリ腕スルヲ無シ



敵地ニ入りテハ人家アル處ニ休憩スルヲ禁ス況ヤ此ニ宿スルオヤ

第百十六章 車陣ヲ作ルトキハ全隊ノ位置侵襲ヲ防クニ便ニノ危難ナカラシメ且速ニ整頓シテ行進ヲ爲スニ適スルヲ要ス車陣ヲ作ルニハ車ヲ連併シテ幾列ト爲シ其間隔ヲ二十歩ト爲シ一行ノ車軸ハ互ニ相對シ而シ其檐木ノ方向ハ皆同一ナルヲ良トス若シ敵襲ノ恐アルトキハ側面ノ空隙ヲ塞クニモ亦車ヲ以テシ其車ノ後輪ハ外ニ面ス而シテ每六車ニ又空隙ヲ存スルヲ一步半トシ此空隙ヲ鎖スニハ車ヲ後面ニ横へ馬ハ皆陣内ニ在リ而シテ此時ハ前列ノ後輪モ亦外ニ面ス凡

テ車陣ヲ作り又休憩スルトキモ必哨兵番兵ヲ出シ以テ之ヲ警守スルヲ要ス

第百十七章 運送隊モ其行進ノトキ警備ノ處置ヲ要スルヲ猶他ノ兵ニ於ルカゴトシ故ニ運送隊ニモ亦前衛後衛ナル者ヲ屬ス

本兵ハ敵襲ヒ來ルベキ方ニ隨ヒ或ハ運送隊ノ先頭ニ立チ或ハ其後尾ニ續キ或ハ其中央ニ並ビ路傍ヲ行ク者トス

第百十八章 村落林隘山林等ノ如キ地ハ敵我運送隊ヲ阻碍シ且之ヲ襲ヒ易キヲ以テ此地ヲ過クルニハ最警戒ヲ加フルヲ要ス而シテ精細ニ搜索スルノ後ニアラ



ガレハ必經過スル莫レ

第百十九章 行進中敵襲來ルトキハ運送隊ノ司令官能ク注意シテ其須次ヲ乱サズ其隊ヲ輻合シテ猶斷ヘズ行進シ既ニノ防戦ニ便ナル地ニ近ヅケハ則疾行シテ以テ宜ク地利ヲ領スベシ而メ敵勢猛烈ニノ防兵將ニ敗走セムトスルトキハ其司令官車ヲ停メ車陣ヲ作ルノ令ヲ下ス騎兵襲來ルトキハ防兵車陣内ニ入り歩兵侵來ルトキハ防兵車陣ノ周圍ニ在リ若シ敵兵多衆ニメ防兵已ムヲ得ズ車陣内ニ入ルトキハ車上車後又車間ニ在リ防戦ヲ爲スヲ猶騎兵ノ襲來ルトキニ於ルガゴトシ

第百二十章 敵襲ヲ驅逐シ去レハ則直チニ復タ行進ヲ爲ス

第百二十一章 運送隊狹隘内ニ在テ背面ヨリ襲ハル、トモ尚斷ヘズ行進シ狹隘ヲ過クルノ後ニアラサレハ車陣ヲ作ルヲ無シ

此時ハ後衛ノ兵救ヲ加ヘ防戦ヲ嚴ニスルヲ要ス然レハ敵車隊ノ前面ヨリ襲來ルトキハ防兵猛威ヲ震ヒ力戦シ以テ敵ヲ驅逐シ行進ヲシテ自在ナラシム實ニ運送隊ノ極メテ危険ナルハ狹隘内ニテ侵襲ニ遇ヒ之ヲ防クトキニ在リ



陣中要務大尾

官版 不許翻刻

御用御書物所

東洞院三條上心町

村上勘兵衛

堀川通二條下心町

井上治兵衛



